

大会ルール

自ら開発し平成19年（2007）6月15日特許庁より商標登録を頂きました「新実戦空手道」の大会ルールで開催致しております。

日本の国技である大相撲の200kg近い巨漢がぶつかり合う下迫力と髷の先、身体の一部でも土に着いたら負け、足の指先の一部でも俵を割ったら負け、と言う一瞬たりとも気の抜けない武道性を追求している為「場外」「反則」「間合い」など厳しく取る実戦空手です。

開手部門 手刀、裏拳、鉄槌、肘打ちなどの手による顔面攻撃を認めた直接打撃!!

「手による顔面攻撃を禁じたフルコンタクトルールに対し、手による顔面攻撃の無いフルコンタクト、と言う表現は変だ」と言う考えから顔面に強化マスクを着用し手の顔面攻撃も認め頭の先から足の先まで攻撃可能にしたルールの、「手刀」「裏拳」「鉄槌」「肘打ち」「上げ突き」等が生きてくるフルコンタクトルールです。

グローブ部門 顔面にヘッドギア、手にグローブ着用、しかし、キックボクシングではない、あくまでグローブ空手!!

手にグローブを着けると何故かキックボクシングになってしまう傾向があるグローブ空手。空手と呼ぶ以上空手ルールであるべきと言う考えから「綺麗に当たたら一本、又は、技有り」を取るあくまでグローブ空手であるべきです。

新実戦防具部門 定められた個所に1cmでも0.1秒でも早く!!

当たったけれども流れた技、手首の曲がったもの、手刀の形になっていない手刀的なもの等、キチンと見極めた上で「定められた個所に1cmでも0.1秒でも早く!!」と言う防具の趣旨になります。

新実戦フルコンタクト部門 手による顔面なしでも常に間合いを取り 技で、本戦で!!

「手による顔面攻撃なし」と言う前提は安全最良と言う見方で、格段に普及し、このルールが伝統派に対し実戦系として新しい空手の世界を切り開いた事は紛れも無い事実です。しかし、ただ単に我慢競べのようになって来ている事も事実ですね。まして、手が相手の顔に当たっても「大丈夫か?じゃ続行!」、金的を蹴られても転げ回って痛がっていてもそのまま、大分経ってから「大丈夫か?じゃ続行!」、これなら何の制限も無くただ草原の上でやっている「モンゴル相撲風空手」とでも呼び方を替えた方がいい。手による顔面攻撃が無いと分っていても「うっかり飛び込んだらやられる!」。場外線は崖っぷち「踏み外せば真逆さま!」。やっではいけない箇所へ当たたら「反則を取られる!」。こう言う心構えで相手に挑むのが武道空手ではないだろうか。こういう心構えを持たせないから「足を止め、顔と顔がくっ付き合うような間合い」になってしまい、正拳が伸びる距離が無く、下突きで腹を打ち合うしか無くなり、蹴りも伸びる距離が無く、足を払い合うだけの組手になっていると思います。これらを見直し常に間合いを取り技を認める趣旨になります。

これらを総合的に再構成し直したのが「新実戦空手道」です。

大会要綱として参加募集の段階ですでに各団体代表者様にはお送り致しておりますが、再確認の為改めてこの文章を作成致しました。

大会主催者の趣旨が日本中同じなら、柔道や剣道のようにルールは日本中一つであるべきだと思いますが、こと空手の世界は何故こうもルールが山ほど有り、全日本と呼ぶ大会が何十も有るのか?しかし、逆に考えると色々なルールがあるからこそ「今度あの大会に出てみようか?」と感ずるのも事実ですね。今回は「新実戦空手道」各ルールの大会です。「こんなはずでは無かった」とがっかりしてお帰り頂くような選手や関係者がいらっしやったら自分としても悲しくなります。

どうか武道空手道を追求する「新実戦空手道 宮川道場」の考えを御理解頂ければこの上ない喜びです。御健闘をお祈り申し上げます。

「新実戦空手道」及び「『手刀、裏拳、鉄槌、肘打ち等の伝統技』や『上げ突き・鉤突きなどの妙技』を上段に生かす」という大会ルールは、「宮川道場」で創案・具体化したものであり、「特許庁に商標登録」されております。よって、この「名称」及び「大会ルール」の無断転用、類似ルールの開発等を禁じます。

宮川博人 押忍